

日本鉄鋼協会記事

37年度第2回 評議員会 日時：38年2月20日午後4時開会。場所：協会々議室。出席者：室井評議員ほか委任状出席とも105名。

議事 I. 名誉会員推挙の件。II. 次期改選理事、監事および評議員候補者推薦の件。III. 昭和37年度事業報告、収支決算および財産目録の件。IV. 昭和38年度事業計画案および収支予算案の件。

37年度第12回理事会 日時：38年2月20日午後4時開会。場所：協会々議室。出席者：三島会長ほか17名。

報告事項 I. 名誉会員逝去の件。II. 編集委員会に関する件。III. 企画委員会に関する件。IV. クリープ試験研究組合に関する件。V. 定款一部変更認可の件。VI. 秋季大会開催の件。VII. 関西支部事務所移転の件。VIII. 英国鉄鋼視察団歓迎準備に関する件。IX. X線応力測定に関する講習会協賛の件。X. 第6回自動制御連合講演会参加の件。XI. 第10回腐食防食討論会共催の件。

協議事項 I. 名誉会員推挙の件。II. 次期改選理事、監事、および評議員候補者推薦の件。III. 昭和37年度事業報告、収支決算および財産目録の件。IV. 昭和38年度事業計画案および収支予算案の件。V. 昭和38年度表彰者決定の件。VI. ラテライト研究部会鋼質分科会に関する件。VII. 1月中入退会その他会員異動の件。IX. 1月中収支決算の件。

38年度第1回理事会 日時：3月15日午後4時開会。場所：協会々議室。出席者：三島会長ほか20名。

報告事項 I. 編集委員会に関する件。II. 企画委員会に関する件。III. クリープ試験研究組合に関する件。IV. 英国鉄鋼視察団に関する件。V. 学振との連絡協議会の件。VI. 東洋レーヨン科学研究助成金受贈者の件。VII. 本多記念賞受賞者の件。VIII. 第6回高温強度シンポジウム協賛の件。

協議事項 I. 春季大会に関する件。II. 支部長会議開催の件。III. 九州支部役員改選の件。IV. 事務所移転に関する件。V. 職員退職並びに新規採用の件。VI. 2月中入退会その他会員異動の件。VII. 2月中収支決算の件。

37年度第12回編集委員会 日時：2月15日午後5時開会。会場：協会会議室。出席者：松下理事ほか16名。

報告事項 I. 会誌第1号(1月号)完成、および第2号(2月号)、第3号(3月号)完成予定について。II. 欧文誌第2巻第3号完成予定について。III. 依頼論文について。

協議事項 I. 会誌第1号の講評。II. 寄稿論文の審査。III. 会誌第5号(5月号)掲載論文の選定。IV. 俵賞候補論文の選考。V. 寄稿規程について。VI. 会誌改善アンケートについて。

38年度第1回編集委員会 日時：3月22日午後4時半開会。

報告事項 I. 会誌第2号(2月号)完成および第3号(3月号)完成予定について。II. 第4号(4月号)掲載随想について。

協議事項 I. 会誌第2号の講評。II. 寄稿論文の審査。III. 会誌第6号(6月号)掲載論文の選定。IV. 翻訳図書について。V. 抄録について。VI. 欧文誌について。

37年度第11回企画委員会 日時：2月19日午後4時開会。会場：協会会議室。出席者：伊木理事ほか10名。

報告事項 I. X線応力測定に関する講習会協賛の件。II. 第6回自動制御連合講演会参加の件。III. 第10回腐食防食討論会共催の件。IV. 英国鉄鋼視察団来日の件。

協議事項 I. 定款施行細則一部変更の件。II. 九州支部規則一部変更の件。III. 学振との連絡に関する件。IV. 朝日学術奨励金候補者推薦の件。V. 職員給与に関する件。

38年度第1回企画委員会 日時：3月12日午後5時開会。会場：協会会議室。出席者：伊木理事ほか8名。

報告事項 I. 鋼材の照射試験研究会同委員会に関する件。II. 学振との連絡協議会開催の件。III. 東洋レーヨン科学技術研究助成金受贈者決定の件。IV. 本多記念賞受賞者決定の件。

協議事項 I. 海外鉄鋼事情調査に関する件。II. 第6回高温強度シンポジウム協賛に関する件。III. 事務所移転に関する件。

名誉会員逝去 本会名誉会員大倉喜七郎氏は2月1日病氣にて逝去されました。謹んで弔意を表します。

英国鉄鋼視察団来日 英国鉄鋼協会を代表する視察団一行17名(うち夫人2名)は、本会の招請に基づき予定の通り3月17日来日、全国各地の主要鉄鋼工場、研究所などを見学し、また学界、業界の主脳者と意見の交換、懇談を行ない、なお本会総会にも出席し、所期の目的を達成して4月4日羽田発帰国の途に就いた。

名誉会員の推挙 英国鉄鋼視察団の来日を機とし、団長 Mr. W. F. CARTWRIGHT、副団長 Sir CHARLES GOODEVE の両氏を本会名誉会員に推挙することとなり、評議員会の議決を経たので、さる4月3日第48回定時総会の席上において推挙式を行ない、三島会長から名誉会員推挙状並びに新たに制定された名誉会員バッジを贈った。

事務局職員異動 昭和15年以来囑託として編集(英文関係)並びに渉外関係事務を担当した高見沢栄寿君は3月18日急病にて死去。また昭和21年以来職員として、また34年以来囑託として専ら編集事務を担当した三宅運秀君は3月31日依願退職。

支 部 記 事

関西支部 事務所移転 支部事務所を京都市左京区吉田本町京都大学工学部冶金学教室内(電話一左京(77)—4111, 4221)に移転した。

中国四国支部 第8回支部講演 3月2日 9:00~16:30 広島市大手町4丁目広島県水産館において日本金属学会と共催の下に実施した。講演題目並びに講演者次の通り(鉄鋼協会分)

1. オーステナイト・ステンレス鋼の析出硬化に及ぼす添加元素の影響
三菱造船(株)宇都善満 ○北島兵馬 森 士郎
2. Cr-Mn-Ni-N 系オーステナイト鋼のδ相に及ぼす加熱条件の影響について
日新製鋼(株) 角谷卓爾 丸橋茂昭 ○長谷川雅司
3. リムド鋼薄板の性質に及ぼす焼鈍条件の影響
東洋鋼板(株) 肥後実男 田中誠一 柴井武彦
4. 低炭素リムド冷延鋼板のプレス成形性に及ぼすCの影響
東洋鋼板(株) 久能一郎 迫田至朗 平松裕更
5. OZダクタイル鑄鉄の耐摩耗性について
尼崎製鉄(株) 高橋宏幸
6. ニッケル・クロム硬質鑄鉄の研究
宇部興産(株) 小倉典康
7. 鑄鉄中の酸素および水素の定量について
東洋工業(株) 筒井蛙声 ○下広年秋 佐藤幸夫
8. 真空型カントレコーダーに依る炉前分析法
日新製鋼(株) 山本裕川 ○長棟通彦
9. Mn-Cr-Mo 系型用鋼に及ぼす成分の影響
日立金属工業(株) 稲田朝雄

九州支部 役員改選 支部規則にもとづき支部役員の改選を実施したところ次記の通り当選、就任した。

支 部 長 和田 亀吉

支 部 顧 問 角野 尚徳

支部理事兼評議員 八木貞之助 木下 禾大 堀田 秀次 三ヶ島秀雄 吉井 重雄 北原 光雄

金森 政雄 野坂 賢次 安川 寛 松本兼二郎 永田 豪 藤木 俊三

嶺 次男 谷村 潔

支 部 評 議 員 海江田弘也 松塚 清人 岡元 敬蔵 安西 泰 河合 正吉 三浦 訓平

原田源三郎 大山 芳武 大古場忠一 相原満寿美 永江 賢吉 太田 隆美

大竹 正 鍵山 正則 豊島 清三

渡辺義介記念講演会 38年3月8日八幡製鉄所特別会議室において開催された。

映画「製鉄」 富士製鉄(株)提供

講演「八幡製鉄所の思い出」 八幡製鉄(株)相談役 角野尚徳君

新 入 会 会 員 氏 名

昭和38年2月20日の理事会において承認された入会会員氏名次の通り。

正 会 員			吉 川 雅 三	〃	〃
小川 朝 康	八幡製鉄(株)	八幡製鉄所技術研究所	麻木 昭 一	〃	〃 広畑製鉄所
小金 森 捷 晃	〃	〃	富永 忠 男	〃	〃
小林 正 俊	〃	〃	小島 鴻次郎	〃	〃 本社原料部
小品 川 保 雄	〃	〃	高橋 宣 夫	〃	〃 釜石製鉄所
島田 康 平	〃	〃	浜中 一 男	〃	〃 中央研究所
寺尾 周 平	〃	〃	上嶋 正 義	〃	〃 八幡製鉄(株)光製鉄所
野村 高 照	〃	〃	小野山 征 夫	〃	〃
山本 弘 美	〃	〃	川口 忠 雄	〃	〃
徳永 正 昭	〃	〃 製鉄部	黒田 美 紀	〃	〃
松原 光 照	〃	〃 戸畑製造所	吉村 隆 文	〃	〃
平塚 義 男	〃	〃 建設本部	勝田 和 秀	〃	〃 (株)神戸製鋼所中央研究所
河田 晋	日本鋼管(株)	技術部	熊野 征 晴	〃	〃 神戸工場
高橋 寿	〃	技術研究所	那須 進	〃	〃 中央研究所
宮下 恒 雄	〃	川崎製鉄所	西崎 允	〃	〃 神戸工場
鈴木 恒 雄	〃	鶴見製鉄所	渡辺 正 男	〃	〃
川面 富 弘	富士製鉄(株)	室蘭製鉄所	近藤 勝	〃	〃 日新製鋼(株)尼崎工場
菅原 英 明	〃	〃	二宮 敏 男	〃	〃
西牧 純 一	〃	〃	吉田 清	〃	〃 大阪地区研究所
沼沢 喬	〃	〃	清水 三 郎	〃	〃 呉工場

宮川保重 // //
 工藤重 (株)日本製鋼所室蘭製作所
 執行紀 // //
 大垣勉 (株)日本特殊鋼(株)製鋼部
 積田英男 // 技術研究部
 小西進 住友金属工業(株)和歌山製鉄所
 清水英男 // //
 中村厚 // //
 真壁郁雄 // 鋼管製造所
 龜井本慎三 日本冶金工業(株)川崎製造所
 小野田守 東北大学選鉱製錬研究所
 佐々木寛 東北大学金属材料研究所
 佐々木林三 日立金属工業(株)安来工場
 相原徹爾 // //
 平栗貞爾 山陽特殊製鋼(株)
 渡辺哲也 // //
 杉浦敬三 東都製鋼(株)豊橋製鋼所
 戸田進 // //
 伊藤実 川崎製鉄(株)千葉製鉄所
 大原島真試 // //
 井上崇胤博 // 葦合工場
 小松柳三 愛知製鋼(株)知多工場
 中田正八郎 // //
 石田求 芝浦工業大学教授
 金武典夫 (株)鬼頭製作所
 熊谷嘉智雄 理研製鋼(株)
 隈部輔輔 金属材料技術研究所
 桜井立夫 八幡鋼管(株)
 城子明弘 三菱製鋼(株)長崎製鋼所
 新鈴木敏夫 北海道大学理学部
 鈴芹田陽 秋田大学鉱山学部教授
 恒川喬介 大同製鋼(株)星崎工場
 堂園美秋 中部鋼板(株)
 富田政雄 利川製鋼(株)
 西川淳一 (株)中山製鋼所
 早川巖 (株)日立製作所勝田工場
 堀森真市 神奈川大学教授
 藤田明 大阪富士工業(株)
 守田協 協和図書(株)
 山田守 名古屋大学工学部
 山本二郎 東洋鋼板(株)下松工場
 保田定男 久保田鉄工(株)尼崎工場

吉森孝良 岐阜大学工学部工業化学科助教授
 孝 學生会員
 浅井 純弘 愛媛大学工学部冶金学科在学
 芦谷 純興 // //
 池田岡 幸重 // //
 梅谷 孝寿 // //
 大大森 昭一 // //
 大大片 達一成 // //
 大大浦 宣英 // //
 大川内 信輝 // //
 楠合田 公明 // //
 佐々木 昭勲 // //
 篠原 昭昌 // //
 神野 昭則 // //
 白川 紀漳 // //
 坪根 斉行 // //
 永堀井 信武 // //
 前山田 政弘 // //
 浅井谷 復繁 秋田大学鉱山学部冶金学科在学
 荒彦 兼夫 // //
 安野清 次祐 // //
 荻木 進秀 // //
 洪沢 建一 // //
 田中 石務 // //
 獄高橋 己代治 // //
 林本吉 正浩 九州大学大学院在学
 森森 忠克 // 工学部冶金学科在学
 森尾 形昌 // 大学院在学
 神田 哲彦 九州工業大学工学部金属工学科在学
 岡本 進男 // //
 浜崎 敦 京都大学工学部冶金科在学
 水谷 正義 // //
 山崎 正勝 名古屋大学工学部大学院在学
 小泉 保夫 // //
 椎野 秀夫 千葉工業大学金属工学科在学
 藤平 昭一 東京大学工学部冶金学科在学
 山本直樹 東京工業大学金属工学科在学
 芝浦工業大学

昭和38年3月15日の理事会において承認された入会会員の氏名は次の通り。

正 会 員
 田中実 八幡製鉄(株)八幡製鉄所工作部
 外山弘 // // //
 野崎末美 // // //
 古川勝弘 // // //
 森尾勝安 // // //
 打田成清 // // //
 小川 清 製鋼部

倉持勝 // 光製鉄所
 鈴木克己 // 技術開発部
 小田部精一 富士製鉄(株)室蘭製鉄所
 野崎充馬 // //
 平田竜一郎 // //
 原田一信 // //
 米沢信樹 // //
 高地 徳 日本鋼管(株)技術部

田島重彦	〃	川崎製鉄所	万代淑郎	三建産業(株)
武田宣正	〃	鶴見製鉄所	水谷吉郎	セントラル工業(株)
成田宏	〃	水江製鉄所	森本忠興	(株)日立製作所
黒川常夫	三菱造船(株)研究部		守田紀	(株) 〃
宮崎隆之	〃		守川泰郎	日立金属工業(株)若松工場
桜井治男	住友金属工業(株)本社		矢沢彬	東北大学選鉱製錬研究所
白藤禎男	〃	鋼管製造所	山田誠吉	関東製鋼(株)
菅原保	〃	中央技術研究所	山田守	名古屋大学工学部
竹内久弥	〃	和歌山製鉄所	吉田幹夫	日本ステンレス(株)直江津製造所
岡部英雄	川崎製鉄(株)千葉工場		吉田利男	日本砂鉄鋼業(株)
垣生泰弘	〃	技術研究所		学 生 会 員
今村元昭	(株)日本製鋼所広島製作所		大石修正	関西大学工学部金属学科在学
梶川英雄	〃		大毛尾達	〃
京極武	東海製鉄(株)		沢田清生	〃
和田直道	〃		鹿田順生	〃
安西広恭	中部鋼板(株)製鋼部		須方正文	〃
石川勝久	日立金属工業(株)		西村武夫	〃
岩下藤一	大和製鋼(株)		大河平和	名古屋大学工学部金属学科在学
太田均	トヨタ自動車工業(株)		比島之夫	〃
清水弘生	愛知製鋼(株)		小坂岑雄	〃
木下慶三	中外炉工業(株)管理部		谷沢清人	〃
住野久四郎	東洋高周波工業(株)		内藤文雄	〃
鈴木寛之	松下電器産業(株)		水谷誠	〃
中村圭男	三上鋳螺工業(株)		向井楠宏	〃
中尾勝英	(株)神戸製鋼所高砂工場		鰐部吉基	〃
長谷川雅司	日新製鋼(株)呉地区研究所		上田全紀	大阪大学工学部冶金学科在学
広瀬輝夫	大同製鋼(株)研究所		恒石広志	秋田大学鉱山学部在学

書 評

「最新 溶接ハンドブック」

増補版

鈴木春義著

昭和 35 年に初版されたものに、さらに増補版として最近注目をあびている炭酸ガスアーク溶接を加えたものである。

最近における溶接技術の進歩は実に目ざましく、その応用範囲も造船、橋梁、車輛、建築、ボイラをはじめとしてあらゆる工業部門にわたっている。溶接方法においても次第に自動化され、その種類もサブマージドアーク溶接はもとより、エレクトロスラッグ溶接、炭酸ガスアーク溶接など、融溶溶接だけ数えてみても、たいへん種類が多い。また取扱われる金属も鉄鋼材料は勿論のこと銅合金、アルミニウム合金からチタニウム、ジルコニウム合金に至るまでほとんど全ての金属材料が含まれている。

本書は融溶溶接を主体として、各種溶接法、切断、溶接冶金、溶接設計、残留応力と変形、試験および検査、各種金属の溶接と今回さらに炭酸ガスアーク溶接を加え、15章にわたり新しい資料を豊富にとり入れてまとめている。とくに著者が永年試験、研究にたずさわつて来たのでその膨大な新しい資料がわかり易く整理されていることがこの書の特徴で、溶接施工、溶接設計者をはじめ材料メーカ、溶接研究者にとつて専門書として非常に有益である。とくに急激な発達をとげた炭酸ガスアーク溶接はその詳細な説明とあいまつて得がたい参考書である。

また鉄鋼関係者にとつて高張力鋼の溶接は溶接冶金の明快な解説とともに貴重な資料を提供してくれる。

(堀川一男)

(A 5 版 858 ページ、定価 2,800 円 山海堂発行)